



# 2023年3月期 決算説明会資料

---

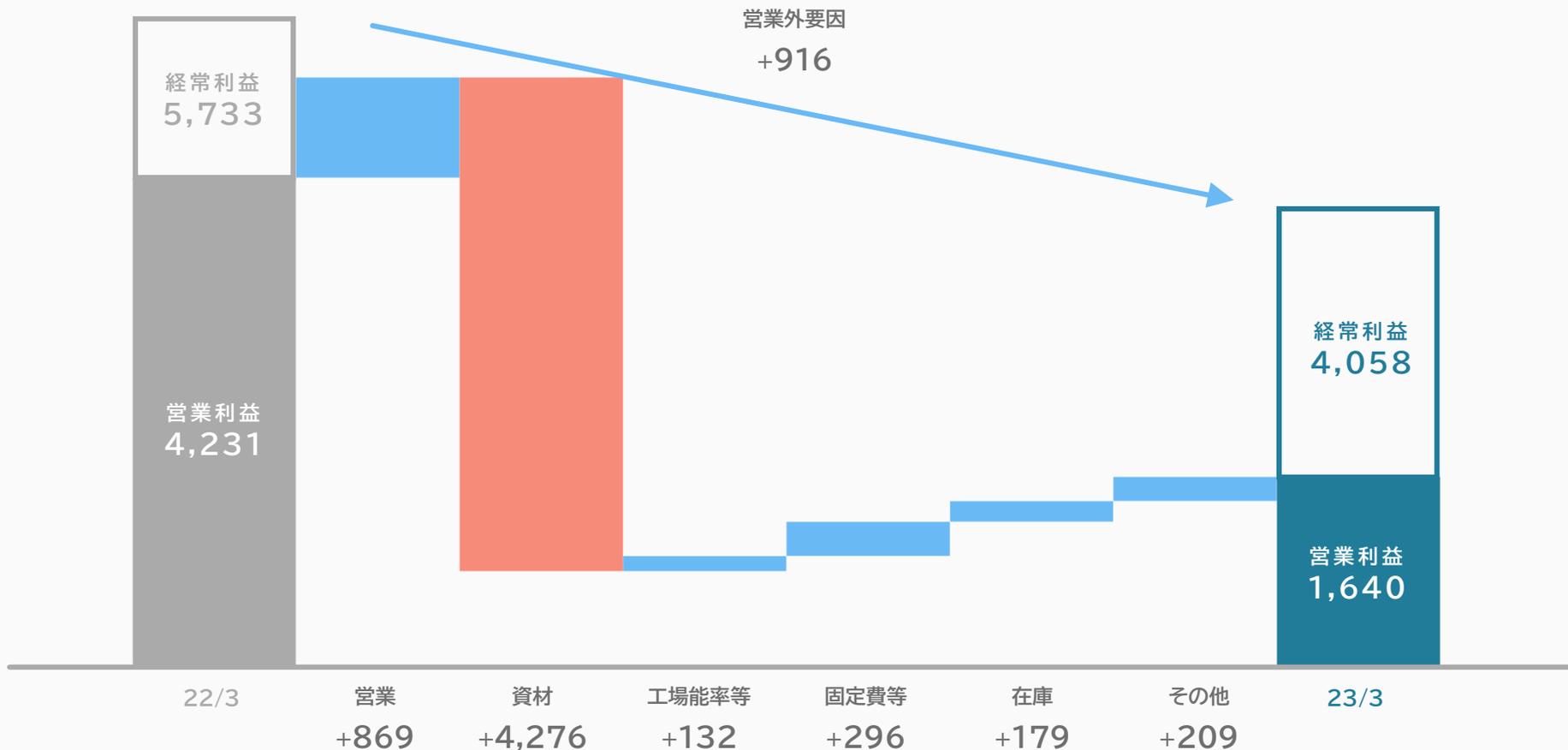
特種東海製紙株式会社（東証プライム：3708）

- 原燃料価格の高騰により厳しい事業環境
- 販売価格の改定が浸透しはじめたものの前年同期比増収減益

|                     | 22/3   | 23/3   | 前年同期比  |        |
|---------------------|--------|--------|--------|--------|
| 売上高                 | 80,711 | 84,130 | +3,419 | +4.2%  |
| 営業利益                | 4,231  | 1,640  | ▲2,591 | ▲61.2% |
| 経常利益                | 5,733  | 4,058  | ▲1,675 | ▲29.2% |
| 親会社株主に帰属する<br>当期純利益 | 5,251  | 4,130  | ▲1,121 | ▲21.3% |

利益の増減要因

(百万円)



- 産業素材・生活商品は増収、特殊素材は数量減少により減収
- 環境関連は順調に業績を伸ばしており増収増益

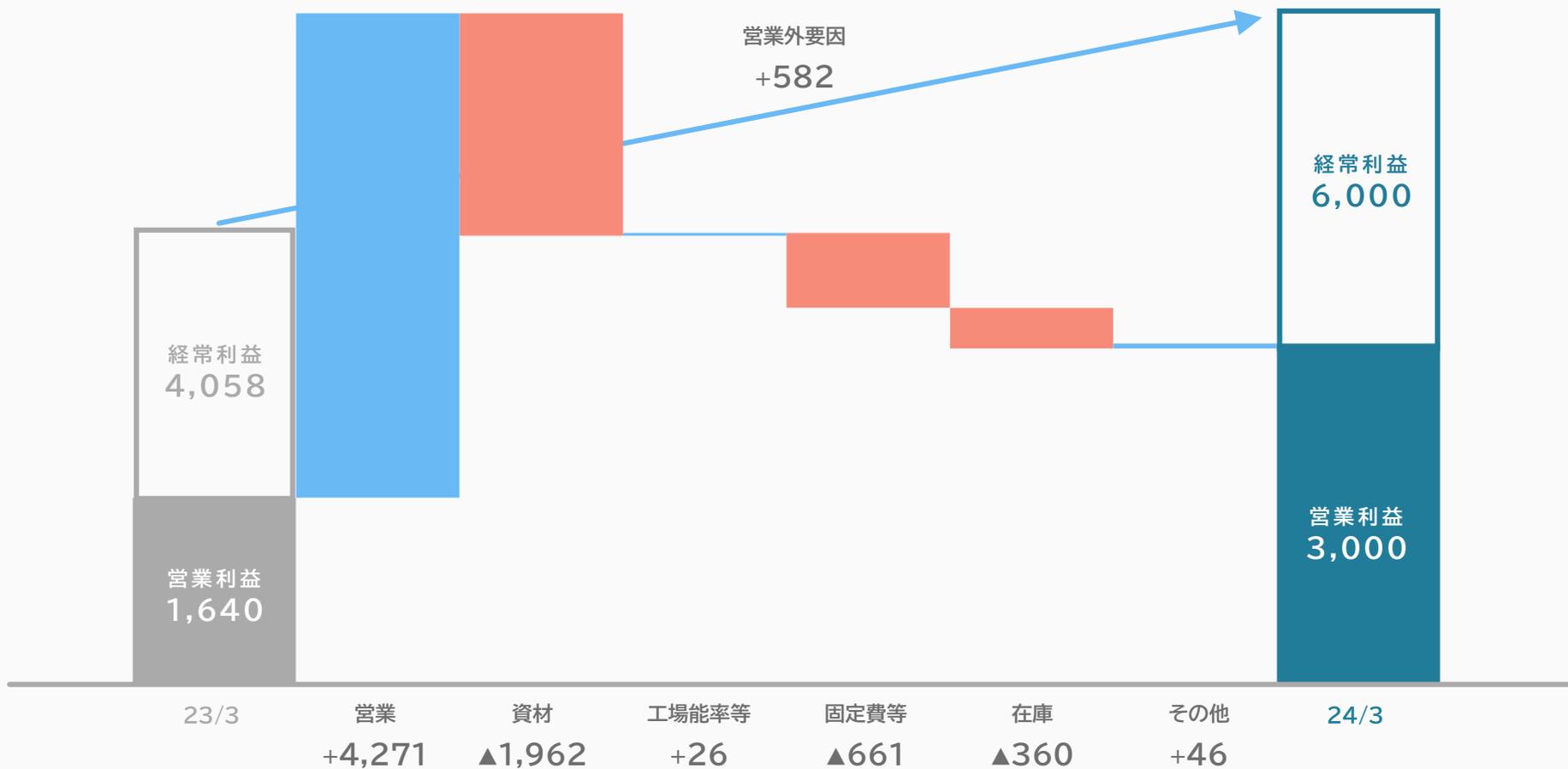
|        |      | 22/3   | 23/3   | 前年同期比  |
|--------|------|--------|--------|--------|
| 産業素材   | 売上高  | 39,375 | 43,493 | +4,118 |
|        | 営業利益 | 1,154  | 977    | ▲177   |
| 特殊素材   | 売上高  | 21,275 | 20,661 | ▲614   |
|        | 営業利益 | 2,390  | 615    | ▲1,775 |
| 生活商品   | 売上高  | 16,859 | 17,358 | +499   |
|        | 営業利益 | 574    | ▲139   | ▲713   |
| 環境関連   | 売上高  | 8,174  | 8,502  | +328   |
|        | 営業利益 | 2      | 84     | +82    |
| 消去等調整額 | 売上高  | ▲4,974 | ▲5,884 | ▲910   |
|        | 営業利益 | 109    | 101    | ▲8     |
| 合計     | 売上高  | 80,711 | 84,130 | +3,419 |
|        | 営業利益 | 4,231  | 1,640  | ▲2,591 |

- 製紙3セグメントいずれにおいても販売価格の改定効果が発現、増収増益のV字回復の見通し

|                     | 23/3   | 24/3   | 前年同期比  |        |
|---------------------|--------|--------|--------|--------|
| 売上高                 | 84,130 | 90,000 | +5,870 | +7.0%  |
| 営業利益                | 1,640  | 3,000  | +1,360 | +82.8% |
| 経常利益                | 4,058  | 6,000  | +1,942 | +47.8% |
| 親会社株主に帰属する<br>当期純利益 | 4,130  | 4,000  | ▲130   | ▲3.2%  |

利益の増減要因

(百万円)



# 第6次中期経営計画サマリー

特種東海製紙株式会社（東証プライム：3708）

※ 詳細は本日発表資料「第6次中期経営計画」をご参照ください。

特種東海製紙グループの中長期的な

**企業価値の向上** =



持続可能な社会へ貢献

これまでも

これからも

循環型社会を形成するため

既存製紙事業だけでなく製紙以外の新たな事業領域 = 環境関連事業に注力

持続可能な社会への貢献を果たしていく

新たな事業領域

**環境関連への挑戦**

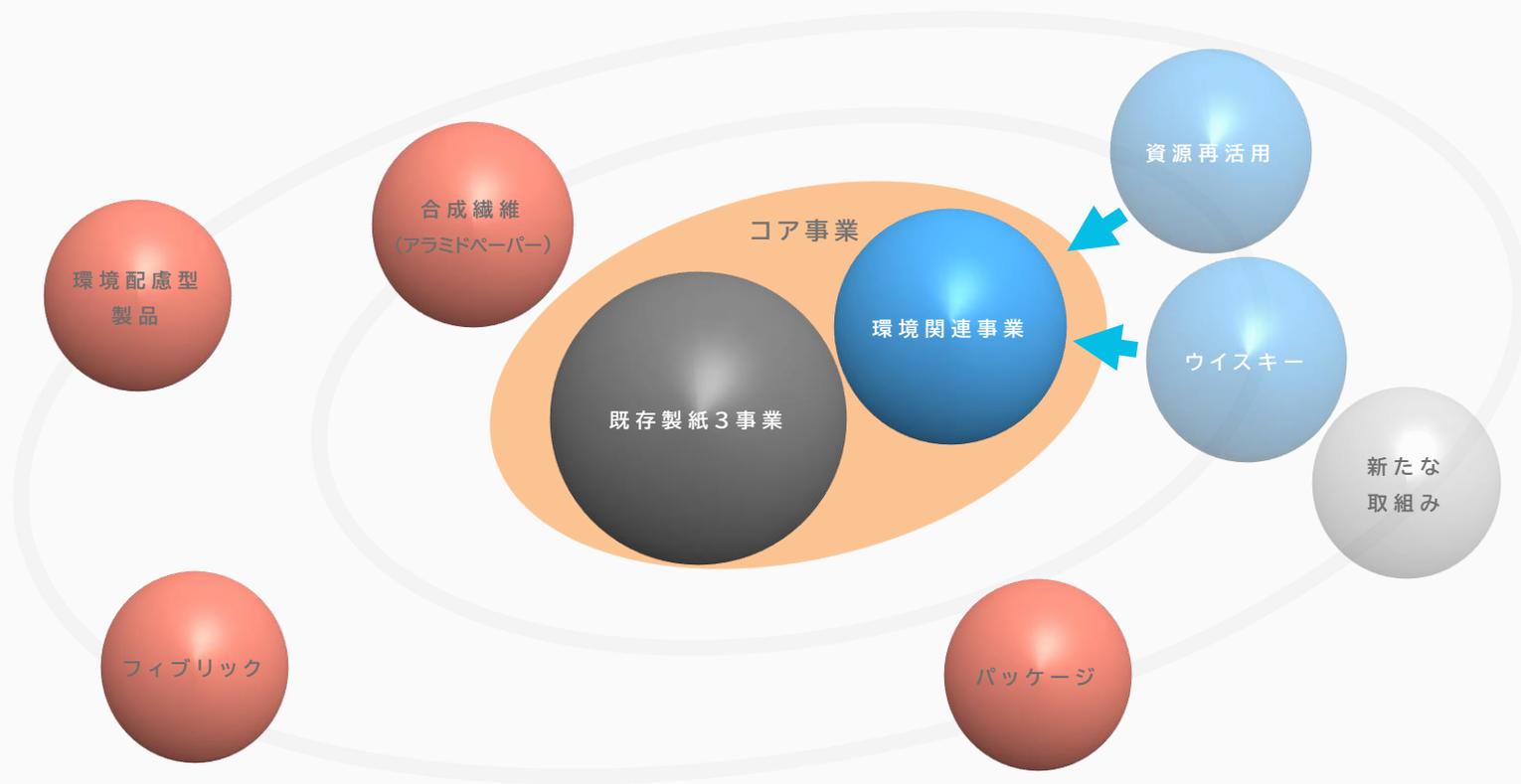
**製紙3事業の更なる推進**

**経営基盤の強化**

進むべき道

企業価値向上に向けて取るべきアクション

# 事業ポートフォリオの変革



ポートフォリオ変革 = 縮小する紙パ事業から拡大が見込まれるリサイクル事業へ

## 環境関連を主軸に成長を図る

### 過年度実績

|      |       |
|------|-------|
| 営業利益 | 16 億円 |
| 経常利益 | 40 億円 |
| ROE  | 5.7 % |

### 6次中計目標値

|      |       |
|------|-------|
| 営業利益 | 50 億円 |
| 経常利益 | 80 億円 |
| ROE  | 7.0 % |

### 長期目標値

|      |        |
|------|--------|
| 営業利益 | 100 億円 |
| 経常利益 | 130 億円 |
| ROE  | 8.0 %  |

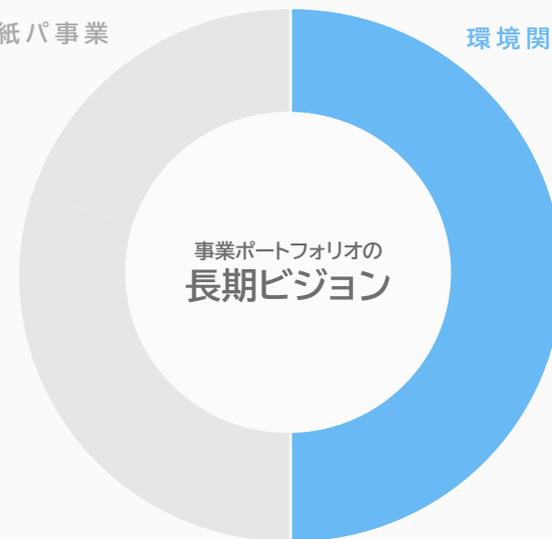
紙パ事業 環境関連



紙パ事業

環境関連

事業ポートフォリオの  
長期ビジョン



長期ビジョンに向けた6次中計のスローガンは

# 選択と挑戦、そして革新

新たな事業ポートフォリオに向けた **選択**

新たな事業領域（環境関連事業）

製紙の更なる推進

挑戦

資源再活用事業拡大

自然環境活用事業  
社有林の有効活用

製紙事業強化

革新

総合リサイクル事業へ

事業としての収益貢献

新たなサテライト創出

成長投資枠

合計 **87** 億円

**48** 億円（55%）

**4** 億円（5%）

**35** 億円（40%）

# 選択1 資源再活用事業拡大への挑戦



## 革新

高度なりサイクル技術の研究・開発により  
総合リサイクル事業へ

マテリアルリサイクル

サーマルリサイクル

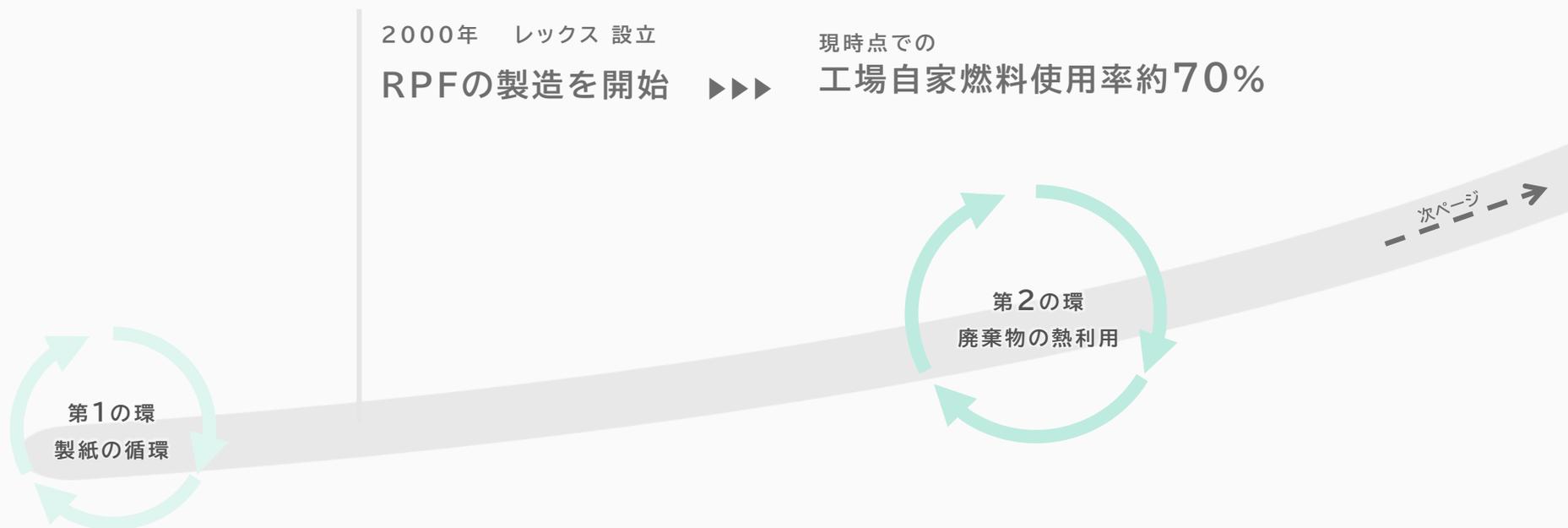


資源再活用事業における6次中計目標

対5次中計最終年度比  
営業利益+6億円

積極的な投資により5次中計までの期間で資源再活用事業は

## 廃棄物の熱利用 = 第2の環まで到達



2020年 駿河サービス工業を子会社

## トーエイへ資本参加

2020年 駿河サービス工業 子会社化

リサイクルの領域拡大

▶▶▶ 集荷能力UP



現地点

第3の環  
リサイクルの高度化

産業・一般廃棄物の  
収集運搬の機動力

家電・ガラスなどの  
再資源化技術

リサイクルに留まらない  
幅広いノウハウ

**Toei**  
Total environmental innovation

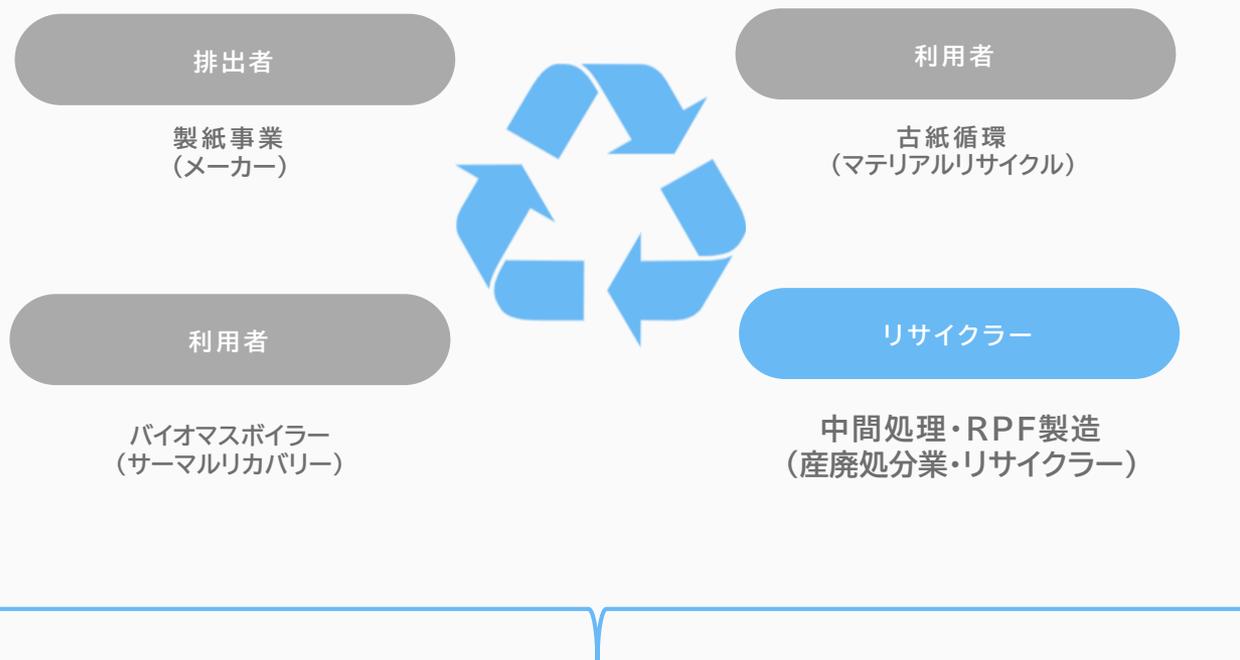
第4の環  
持続可能な廃棄物処理と  
エネルギー利用

資源再活用事業のステージは

マテリアルリサイクルへ

レックス・駿河サービス工業・トーエイのシナジーにより

## グループ内の資源循環を強化



グループ内で資源循環をフルカバー

循環型社会の形成に向け引き続き経営資源を投入

選択 2

自然環境活用事業 への挑戦  
社有林の有効活用



革新

事業としての収益貢献

24,430haに及び広大な井川社有林は

# 守っていきべき当社のアイデンティティ

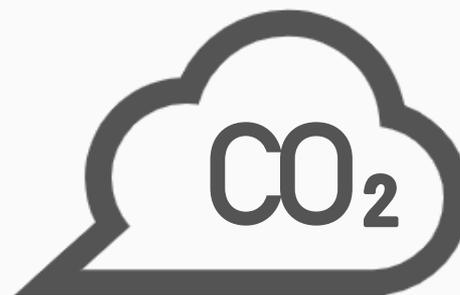
テーマ

井川社有林が持つ価値を社会に還元



## 生物多様性の保全

- 土砂災害防止機能
- 水源涵養機能



## CO<sub>2</sub>の吸収・固定・貯蔵

- 地球温暖化防止機能

井川社有林が持つ価値を利用して

## ウイスキー事業の拡大

テーマ | 大自然の恵みとモノ造りのプロである“こだわり職人”によるウイスキーのブランド化



- 希少な高山植物が群生する大自然の中で時間をかけて熟成されるウイスキー
- モノ造り（製紙）のプロである“こだわり職人”による妥協なき品質へのこだわり（個性あるウイスキーの製造）
- 製造に使用する電気は水力由来のCO<sub>2</sub>フリーの電気

- 井川社有林の経営資産としての価値向上
- ウイスキー販売を通して井川社有林が持つ価値を社会へ還元

ウイスキー事業における第6次中計目標

収益貢献を果たす

選択 3

製紙事業の製品構成入替への挑戦



革新

新たなサテライトの創出

岐阜工場を閉鎖(5/12発表)

# ファンシーペーパーの生産体制集約



特殊紙の生産を  
三島へ集約  
更なる生産体制の効率化

→ より安定的な  
製品供給を実現

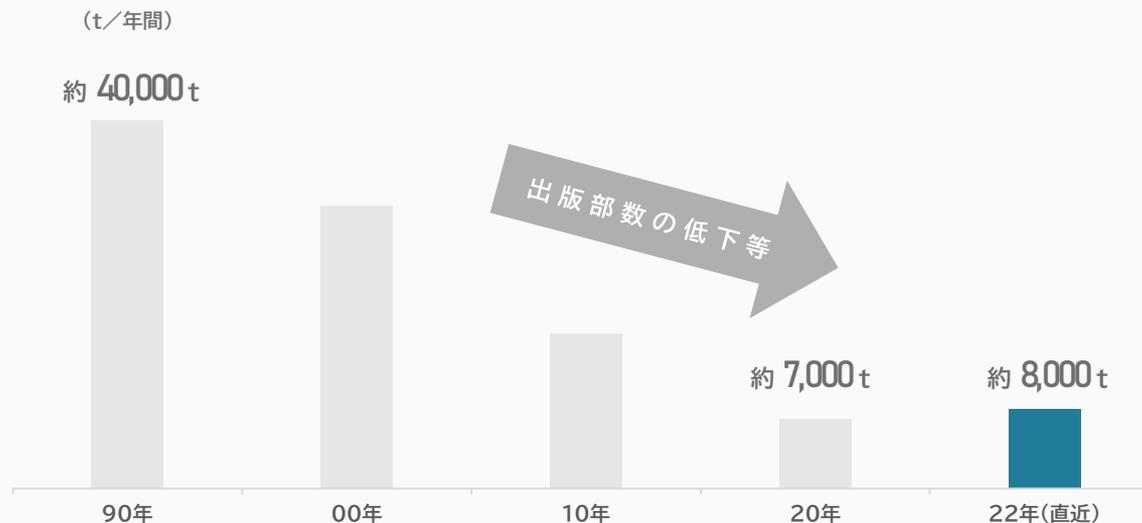


同工場敷地内にある  
モールド生産設備も  
三島工場へ移管予定

→ 生産を継続

閉鎖の背景

ファンシーペーパー市場は縮小傾向

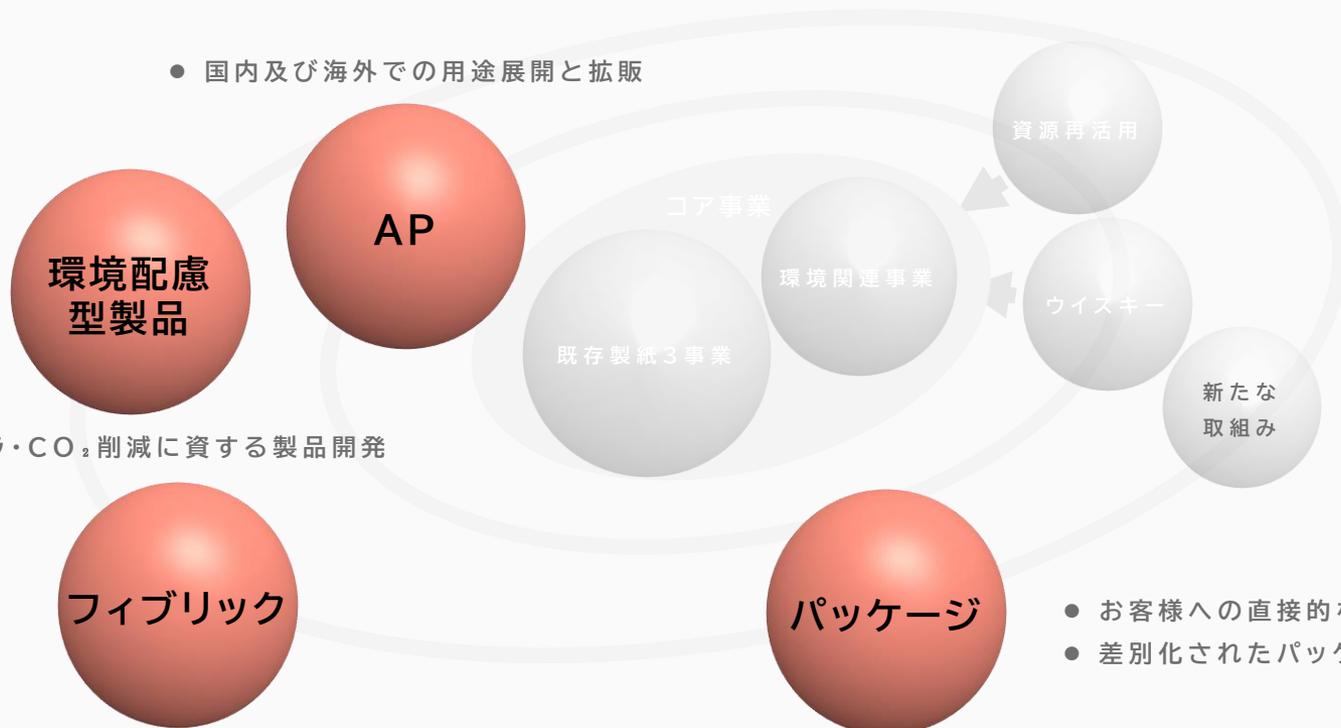


※ 当社ファンシーペーパーの販売量の推移。2010年以前のデータには横井工場含む。

研究開発・市場開拓を進め製紙における

# 新たなサテライトを創出

- 国内及び海外での用途展開と拡販



- 脱プラ・CO<sub>2</sub>削減に資する製品開発

- 生産能力拡大の検討

- お客様への直接的な製品提案
- 差別化されたパッケージの開発

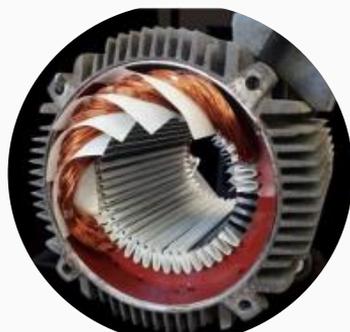
フィブリック、合成繊維関連等の6次中計目標

対5次中計最終年度比

営業利益+6億円

## 検討・採用例

### アラミドペーパーの応用



耐熱性・絶縁性・寸法安定度が高い  
アラミド繊維で新たな応用を検討

### 高付加価値パッケージ応用



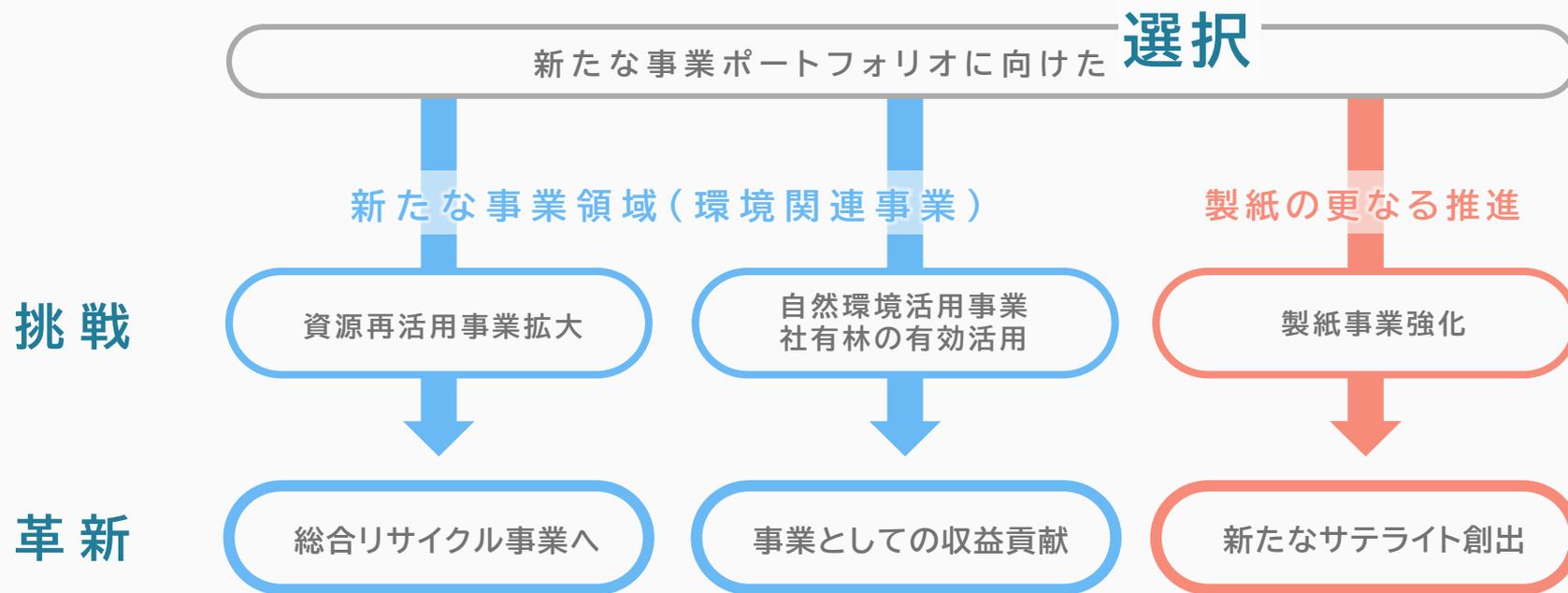
当社モールドが採用された  
(株)キングジム様「HITOTOKI」



廃材を混焼したモールドを使用  
(株)デザインフィル様「MDノート」

顧客視点に立った新たな価値を創造すべく、マーケティング&リサーチ活動、新事業探索を進め

新たなサテライトを創出し続ける



6次中計  
目標

対5次中計最終年度比  
営業利益 + **6**億円

赤字からの脱却  
(改善額 **2**億円)

対5次中計最終年度比  
営業利益 + **6**億円

中計目標値達成のために6次中計においては今まで以上に

## 資本コスト・資本収益性を意識した経営を実践

総資産利益率(目標ROA) > 当社加重平均資本コスト(WACC)  
目標ROAをハードルとした投資判断を行い収益性を意識

事業効率

事業本部総資産利益率(ROA)

= 税引後貢献利益※ ÷ 事業本部総資産 ※本社費負担前事業本部営業利益

投資判断

投資利益率(ROI) > 総資産利益率(目標ROA)



東京証券取引所からの要請も

「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について(3/31)」

増配や自社株買い等の資本政策は状況に応じて柔軟に判断

## PBRをはじめとした各指標の改善へ

配当について

配当性向30%程度を目途とした  
安定・継続した配当が基本的なスタンス



新規事業の拡張等で収益改善を図ることで

配当方針のもと増配も視野に入れて判断

自社株買いについて

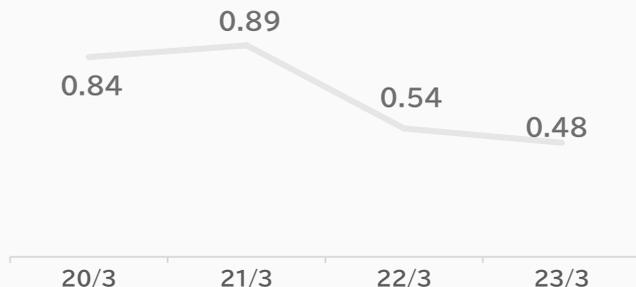
5次中計期間内で約74億円の自己株買い実施  
保有方針に基づき発行済み株式数の約10%まで消却済み



株価水準等を踏まえ

引き続き機動的に実施判断

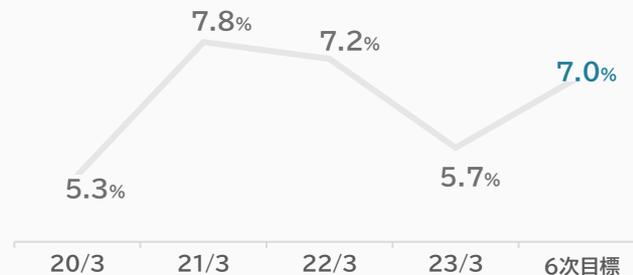
PBR (倍)



※各年度末時点の終値より試算

当社各種指標の推移

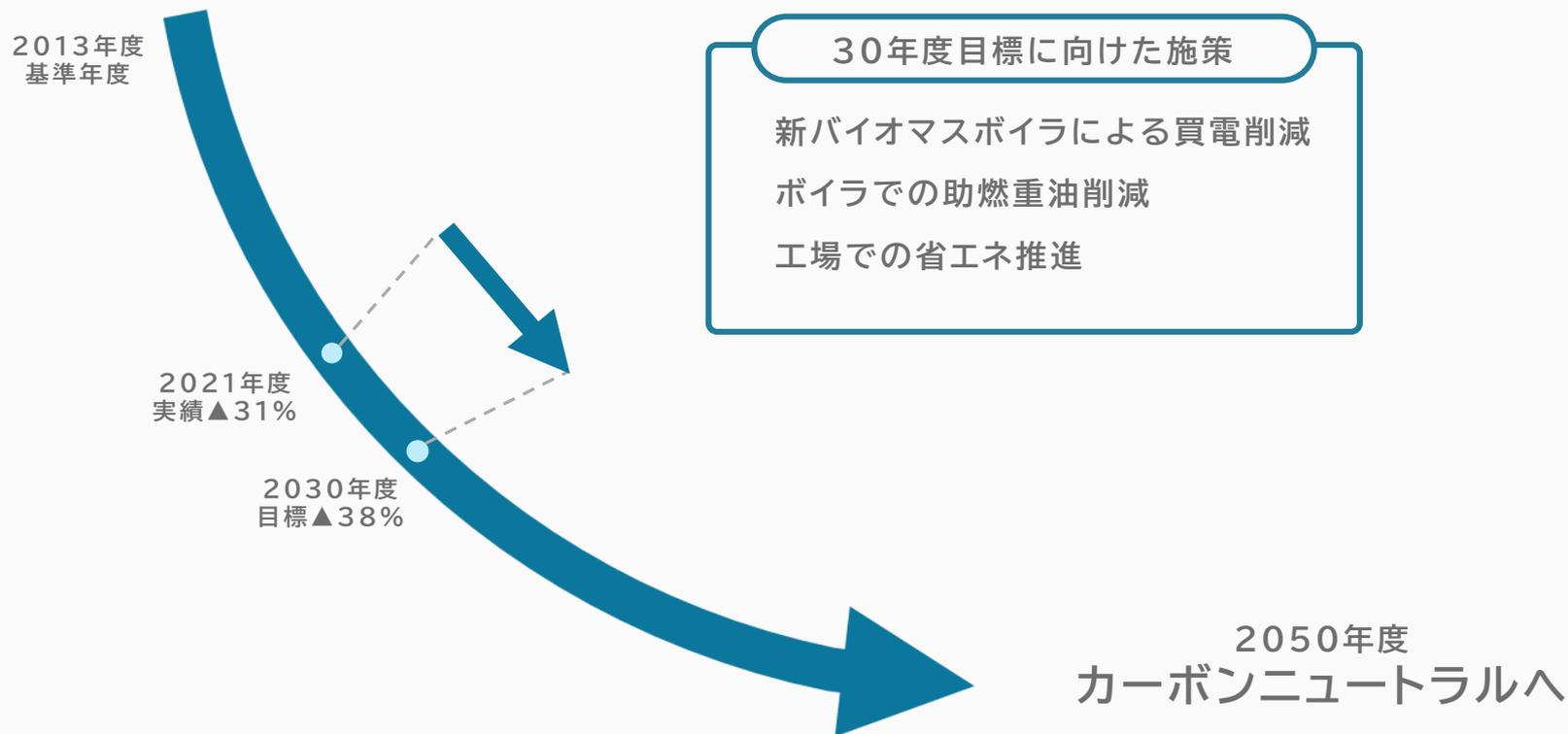
ROE (%)



新東海製紙で2026年度導入予定の新バイオマスボイラ等により

## 2030年度目標は射程圏内

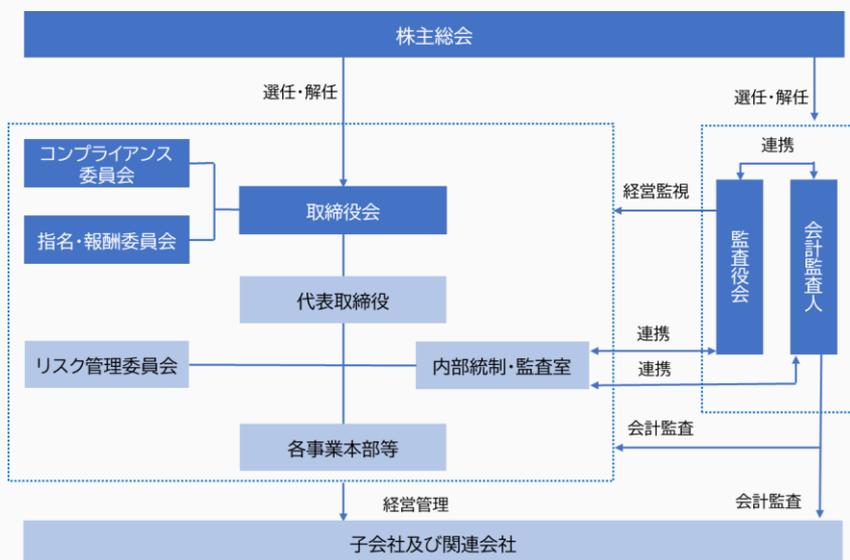
化石エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出原単位は2021年実績で業界平均の1/4を実現



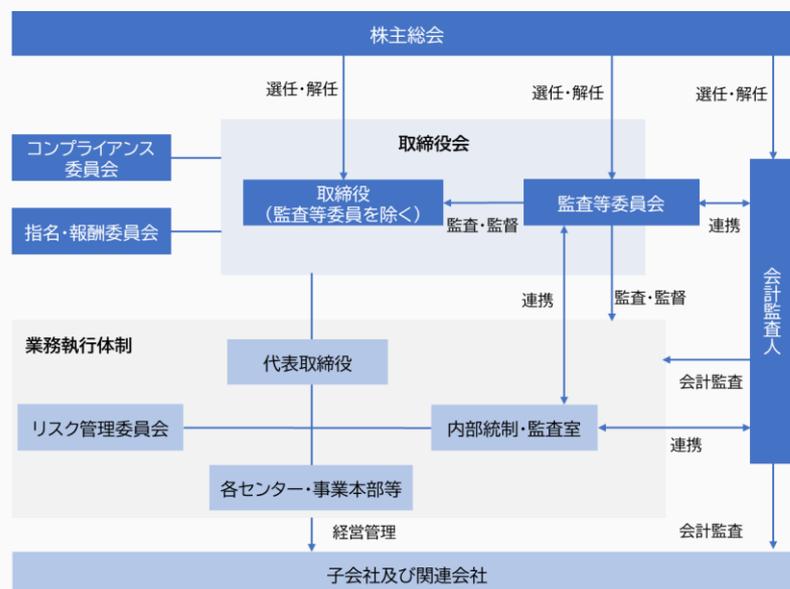
経営基盤強化の一環として監査等委員会設置会社へ移行

# モニタリング型の取締役会へ

【現状】監査役会設置会社



【移行後】監査等委員会設置会社



社内取締役5名に対し監査等委員を含めた社外取締役6名の体制へ

特種東海製紙グループの中長期的な

**企業価値の向上** =

SUSTAINABLE  
DEVELOPMENT  
GOALS

持続可能な社会へ貢献

これまでも

これからも

循環型社会を形成するため

既存製紙事業だけでなく製紙以外の新たな事業領域 = 環境関連事業に注力

持続可能な社会への貢献を果たしていく

新たな事業領域

環境関連への挑戦

製紙3事業の更なる推進

経営基盤の強化

進むべき道



お問い合わせ

お問い合わせ先

〒100-0005

東京都千代田区丸の内一丁目8番2号  
鉄鋼ビルディング11F

Tel 03-5219-1816

※ 本資料に掲載しております当社の計画および施策などは発表日時点において把握できる情報から得られた当社の経営判断に基づいております。様々なリスクおよび不確定要因により、実際の業績と異なる可能性がございますことを予めご承知おきくださいますようお願い申し上げます。